

平成24年度第1回新潟市男女平等教育推進研究会会議概要

1 日 時 平成24年11月8日（金）15：00～16：30

2 場 所 新潟市役所白山浦庁舎5号棟401会議室

3 出席者

(1) 委 員（五十音順）

| | |
|-------|-------------|
| 岩崎 正法 | 亀田中学校教諭 |
| 大浦 容子 | 新潟大学教育学部教授 |
| 小竹 正子 | 紫竹山小学校長 |
| 佐藤 美貴 | 新津第一中学校教諭 |
| 津野庄一郎 | 月潟中学校長 |
| 野島 晶子 | 新潟市男女共同参画課長 |
| 宮 蘭 衛 | 新潟大学教育学部教授 |
| 若山 大輔 | 横越小学校教諭 |
| 脇野 範子 | 早通小学校教諭 |

(2) 事務局

| | |
|-------|-----------|
| 佐藤 岩夫 | 学校支援課長補佐 |
| 菱田 由美 | 学校支援課指導主事 |

4 会議内容

(1) 開 会

「昨年度は、委員の皆様のお力で時代に即応した『男女平等教育資料・手引き』の改訂をしていただきました。本年も、児童・生徒、及び保護者の皆様を含めた男女平等教育推進について、皆様方からご協力を賜りますようお願いいたします。」

(2) 会長・副会長選出

| | | |
|-----|-------|------------|
| 会 長 | 大浦 容子 | 新潟大学教育学部教授 |
| 副会長 | 宮 蘭 衛 | 新潟大学教育学部教授 |

(3) あいさつ

会 長

「平成7年に研究推進委員会が立ち上がって資料を作成・改訂してきました。7年と

いうと、小学校3年生の子どもたちが子の資料を使っているわけでその時7歳の子どもが今24歳、資料で学んだ子どもたちがそろそろ親の世代になってくるのだなあと思うと感慨深いものがあります。学校における男女平等の意識も変わってきていますが家庭も少しずつ変わってくるのかなと思います。」

副会長

「パンフレットを改めて見直してみますと、子どもたちは一番時代の息吹を感じて学習してきています。私たち大人の方がそれを追っかけていくという部分があるかもしれないなあっております。時代の変化に合わせて内容を見直していかなければと思います。」

(4) 報 告 (事務局)

① 平成23年度男女平等教育資料活用状況調査の結果について

◇ 資料を活用した学校の割合

小学校3年生 92.2%

小学校6年生 95.7%

中学校2年生 73.8%

新潟市男女共同参画行動計画における目標値（小学校100%、中学校90%）に向けて努力している。もう一声働き掛けたい。

◇ 学校の年間指導計画への位置付け

小学校と中学校の両校種において、位置付けされた学校が年々増えている。中学校を見ると活用状況と年間指導計画への位置付けに相関がある。年間指導計画への位置付けを促していきたい。

◇ 保護者に対する情報提供・啓発

活用が少しずつ浸透してきた。「活用の手引き」の初めに、学習後に児童生徒の手を介して保護者宛メッセージとして家庭に届けて話し合う、懇談会等での話題にする等の活用方法が記載されている。

② 平成24年度の学習資料配付について

◇ 学習資料配布上の工夫

資料が届く少し前に「学校における男女平等教育学習資料『児童生徒用パンフレット』の活用について（依頼）」の文書を学校に届ける。ここには、まもなく届くということ、目標値があるということ、年度末に「実践上の努力点」実践状況調査で年間指導計画への位置付け、並びにパンフレットの活用状況の報告があることについて書いている。また、校長会等を通して活用をお願いをしている。

◇ パンフレットの見直し・改訂について

昨年は活用の手引きの全体計画について見直しをした。
3年生の見直し・改訂，6年生，中学2年生，活用の手引き・全体計画の見直し・改訂と一巡した。

(5) 協議（委員の発言要旨）

① 小学校6年生「資料」を用いた学習

<指導上効果的であったこと・有益であった内容の紹介>

- ◇ 学習資料中の「性別にとらわれた役割分担」場面について考える学習で，学級の子どもたちの様子を見ると，この仕事は男子，この仕事は女子という固定的な見方は見られない。そこで，学習資料を単独で使うのではなく，例えば「道徳」の副読本と関連付けて使用すると効果的であった。
- ◇ 学習資料中の「どのグループに入るか悩んでいる」場面について考える学習で，主人公の悩みや葛藤を自分事として考えることができよかつた。学校生活の中でやりたいことを押し殺したとか友達に任せてしまったとかいう経験をしていることについて改めて知ることができた。「どうしたら自分らしく生きていくことができるのでしょうか。」と問うことで実践的な意見が出てきた。
- ◇ 「～は男子，～は女子」と決めつけるのは実際にはない。決めつけるのはよくないという意見が実感を伴って出てきた。「賛成か反対かは別にして，このように考えている人はどう思っているのかな」と話し合ったのがよかつた。最後は，やりたくないことを人に押しつけるのはよくない，やりたいことをみんなで話し合つて決めるということでもとまった。
- ◇ 家庭生活のあり方について話し合う学習では，家族の分担について交流したことによって家のスタイルがそれぞれあることが分かつてよかつた。
- ◇ 「性別にとらわれた役割分担」場面について考える学習は，学校と家庭とで比較して考えられるのでよかつた。学校の場面では，男女で仕事が違うととらえている児童はほとんどいなかった。家庭での場面では，家事は母親中心と答えた児童が多かつた。

<家庭へのメッセージの活用について>

- ◇ 学習したパンフレットを持ち帰り家の人と話をするように指導した。懇談会や学級便りなどの機会に子どもたちの学習の様子を知らせる。
- ◇ 学級担任からインタビューをした。家庭へ持ち帰らせたが，もらったのを知っていたのは6人中1人だけだった。そのお母さんからは，「父親が率先して家事をしていて，子どもはそれを見てきているので男性の家事を不思議に思っていない。」ということだった。その他の家庭からは，「子どもは男の子と女の子である。同じようにお手伝いをさせている。」「夫は亭主関白なので反面教師になってもら

っている。」「男女平等という言葉を意識して使い子どもたちもそれを見聞きして育っている。」などの声があった。

<指導充実に向けての提案>

- ◇ 気持ちについて問うことは意味があるが、気持ちレベルで終わらせるのではなく、気持ちや意識をもった上で実践を考えさせることが大事だと感じた。そのために発問を工夫する。
- ◇ 「どちらのグループに入りますか？」という場面の学習で、自分の側に立った意見が多く、相手のことを考えるとか友達の意見を尊重することも大切という相手の側に立った意見がなかなか出てこない。投げ掛けを工夫する必要がある。

② 中学生「資料」を用いた学習

<指導上効果的であったこと・有益であった内容の紹介>

- ◇ 生徒にアンケートをとったら、男の職業、女の職業とこだわるのではなく、むしろ一緒にできる仕事を考えた方が分かりやすいという声があった。例えば、介護士は女性がやるものだと思っていたが、実際は男性の人が多くてびっくりしたというように、職場体験の経験を基に職業についての性差にはあまりこだわりがなくなっている現実が見えた。
- ◇ 性差について、小学校のうちには男子も女子もなく仕事を分担していたのに、中学生にきてわがままになるといういろいろな面が出てきたときに、班長は男子というように変わってくる。まだ底の方に性差意識がある。
- ◇ お母さんが家事をやっている家庭が多いわけだが、世界の夫婦の生活時間の比較の資料により、自分たちの状況とのちがいに生徒は驚きを覚えていた。
- ◇ 「育児期にある夫の1日の育児、家事時間の国際比較」と「性別役割分担意識の国際比較」の2つの資料は、意外性に富む資料で生徒にはインパクトがある。発問を明記しておけば発問と資料をセットにして生徒に働き掛けることができる。
- ◇ 中学校の資料で、国際比較によって自分が当たり前だと思っていた日本の状態が実は違うのではないかという投げ掛けができるというのがとても大切な視点だと思う。それと、自分の進路を具体的に結び付けて考える教材になっているのがとてもいい。

<指導充実に向けての提案>

- ◇ 男性の職業、女性の職業だけでなく、互いに協力してできる職業はどんなものがあるかについて話し合わせることによって社会の構造などを考えさせることができる。
- ◇ 介護社会を迎えて男女が協力して家庭や社会参画をしなければならない点を踏

まえ、どのような協力ができるか考えさせる。

- ◇ 男女平等が変わってきているということを実感させる資料で1980年代、2000年代の求人広告の対比は賃金や職種などがずいぶん変わってきていることが分かる。また、進んできてはいるがまだ格差があるという実態を知る補助資料があるとよい。
- ◇ 小学校6年生のパンフレットにある「役割分担を考える」資料は、学校において性別による役割分担意識がまだあるのではないかと問い掛ける資料である。小学校では男女による役割意識がほとんどない状態であれば、投げ掛けられても子どもたちは男女平等ということよりもいやなことを押しつけることはよくないのではないかという男女平等とはちょっと違った授業になってしまう。それであればむしろ、中学校で「班長は男子ね」という雰囲気があるのであれば、中学校でやった方が問い掛けになる。
- ◇ 「新潟市男女共同参画推進条例パンフレット」からの引用は言葉が難しい。子ども用の教材に使うときにアレンジが必要なのかなと思う。

<活用に向けての提案>

- ◇ パンフレットが送られてくるが、届いてから担当に行くまでが曖昧になっている。2年生の年間指導計画は進路指導に位置付けることになっているが、内容を見ると、人権教育、あるいは道徳担当に行く。窓口をきちっと決めて行くことが必要である。
- ◇ 教員評価シートと連動させる。進路指導の主任は教員の評価目標の設定シートに、例えば「男女平等教育パンフレットを活用して複数回授業をするよう職員に働き掛ける」という達成項目をきちっと位置付けることも考えられる。
- ◇ 学校の中で誰が推進していくかが曖昧になっている。進路担当に振られてもいつ誰がやるのか、そういう連携調整は学校の組織としてやっていく必要がある。
- ◇ 中教研の進路指導部、総合的な学習指導部等に出て行ってこんな活用の仕方がありますと伝えることで活用が進む。
- ◇ 新潟市からどのようなパンフレット類がくるのか一覧表になっていればどういうものを指導計画の中にどのように位置付けていくか決められるのでは。
- ◇ 「実践上の努力点」の中に活用を問う項目がある。年度末に調査が掛かるので、年度初めに年間指導計画に位置付けてもらうことを期待している。

5 閉会